

《ワークショップ》
コロナ禍における翻訳出版
——現在そしてこれから——

文責：安部由紀子（翻訳出版研究部会担当理事）

登壇者（敬称略）：

- 司会者： 安部由紀子（東京女子大学現代教養学部准教授、日本出版学会理事）
問題提案者： 山本 知子（多言語書籍翻訳会社（株）リベル代表／仏語翻訳家）
討論者（翻訳者）： 井口富美子（ドイツ語翻訳）
討論者（販売者）： 梶原 治樹（扶桑社販売部長、日本出版学会事務局長）
ディスカッタント： 山崎 隆広（群馬県立女子大学准教授、日本出版学会理事）

キーワード：翻訳、出版事情、コロナ禍、実務家、ICT

討議内容

コロナ禍において、翻訳出版業界においても、編集、販売、翻訳、大学での翻訳教育など、様々な側面で影響が見られている。今回は、業界最前線でその変化を肌で感じてこられている翻訳会社代表、翻訳者、出版販売者を迎え、コロナ禍における国内外の翻訳出版事情、出版コンテンツの変化（コロナを意識した新たなベストセラーの傾向など、国際的な流れ）、海外の版元の取り組み、書店の状況、ICT を活用した新たな翻訳業務のあり方、コロナ後の展望などについて討議をする。